



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



司教の手紙

聖母月に寄せて

— 神の望まれる家庭像 —

鹿兒島教区司教 中野裕明



教区の皆さま、お元気でしようか。今回は「聖母月に寄せて—神の望まれる家庭像—」についてお話ししたいと思います。

ご存じのように今年、聖ヨゼフ年に指定されています。ヨゼフさまといえは、マリヤさまということ、この5月に夫婦によって始まる家庭について考察することは相応しいことだと思います。

教皇フランシスコは、去る3月19日の聖ヨゼフの祝日に、一つのメッセージを發表しました。それは、その日にローマにあるラテラノ教会で開かれていた、ある集会の参加者に宛てたものでした。この集会は、聖ヨハネ・パウロ二世が創設した「家庭司牧研究所」(仮称)主催の集会でした。教皇はそのメッセージの中で、2022年6月に予定されている「世界家庭年」の催しへの準備として、使徒的勧告「愛のよろこび」(2016年3月)の内容をよく分かち合つて欲しいというものでした。

とここで、この使徒的勧告という文書は、教皇が發布するものですが、その内容の基になっているのはシノドス(世界代表司教会議)で審議され、答申としてまとめられた提言集です。因みにこのシノドスは2回開かれていてそれぞれテーマは「福音宣教との関連から見た家庭の司牧的問題」(2014年10月)と「教会と現代世界における家庭の召命と使命」(2015年10月)でした。これまでの話で分かるように、カトリック教会は教会と家庭は密接な関係にあると捉えています。その理由について、今回から数回にわたりお話ししていきます。

聖書の思想 今日、聖書全体には神の人類救済の歴史が記されている、というふうに理解されています。それは、戦争を繰り返す「人間の歴史」に対して、「神の救いの歴史」という捉え方です。と

さて、二人は神の意に反したために恩寵を失い、楽園から追放されました。(創世記1-3章)。しかし神は、人祖の子孫を見捨てることなく、再びご自分の元に戻すために、アブラムを召し出して祝福し、家族と子孫の繁栄を約束します。(創世記12章1-3節)

爾後、アブラハム、イザク、ヤコブ、12部族(ヤコブの子供たち)、ダビデ、ソロモンと、約束の地、イスラエルで繁栄しました。つまり、家族から部族、そして国家へと成長発展していったのです。

しかしこの国家としての繁栄は長くは続きませんでした。強力な武器を持つ大國の侵略に対して、宗教國

族の一員としてこの世に生を受けたことになりました。マタイ福音書によると、イエス誕生の時、東方の3人の博士がユダヤの国に王が誕生したとしてヘロデ王の宮殿を訪ねたとの記録があります。人間の思いとは裏腹に、貧しくして生まれた神の子は、母マリヤと養父ヨゼフの温かいぬくもりが必要だったのでしょう。

神の救いの計画は、家庭の中から始まると言っても過言ではないと思います。

叙階の日の決意を思い出そう

聖香油ミサで中野司教が説教



誓約する新任地に向かう司祭たち

3月30日(火)午前11時から鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂で聖香油ミサがささげられた。聖木曜日(火)にささげられることの多い「祭司職の充満」と司教と司祭の絆を表す「このミサだが、鹿兒島教区では離島など地理的条件を考慮し数年前から数日早く実施している。」

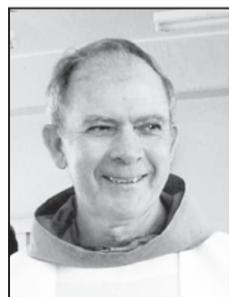
この日のミサには、26人の司祭・助祭が駆けつけ、30人余りの信徒と中野司教を囲んでミサをささげた。

福音朗読後の説教で、中野司教は「私たちは罪深く、苦しみも悩みもたくさんある人間だが、神が先にあわれんでくださり、そして司祭として選んでくださった。司祭職制定の記念日もあるこの日、叙階の日を思い出し、司祭としての原点に立ち返ろう」とメッセージを送った。説教後には全司祭が司祭の約束の更新を行い、その後の共同祈願で司教、司祭のために祈りがささげられた。

ミサの終わりには、各小教区に持ち帰られる三つの油(聖香油、洗礼志願油、病者のための油)がそれぞれ聖別、祝別された。また

訃報

▼ビンセント神父 1969年から1982年まで奄美大島(名瀬聖心教会、瀬留教会、古田町教会)での宣教司牧に活躍したコンベンツアル会のビンセント神父



セント・ラチェンドロ神父が、3月27日(土)入所先の「天使の聖母ケアセンタ1」(米国)で帰天した。84歳だった。1936年5月20日、マサチューセッツ州セイラムに生まれたビンセント神父は、1954年にコンベンツアル会に入会、1963年5月25日に司祭に叙階され、アメリカ、日本、フィリピンなどで働いた。神父の葬儀ミサは3月30日、マサチューセッツ州の聖アントニオ教会で行われた。

修道会人事

▼ウオラ・ジョバンニ・ド・ボスコ神父(レデンブートル会・谷山教会協力司祭)は、4月25日付で徳之島教会協力司祭

重久知司さん 終身助祭候補者に



3月28日(日)、徳之島では終身助祭候補者認定式があった。中野裕明司教によって伊仙町の面縄教会でささげられたこの日のミサの中で終身助祭候補となったのは、アウグスチノ重久知司さん(母間教会)。重久さんは約6か月後に終身助祭に叙階される予定である。

またミサでは、宣教奉仕者9人の選任式があったほか、福田満雄さんと福本みづ子さんが洗礼の恵みに浴した。(3面に関連記事)

修道会便り

▼カノッサ修道女会 カノッサ修道女会では、同会が経営母体となっている伊佐市にある女子校「大口明光学園」の開校に合わせ、1961年から鹿兒島教区で働いていたが、諸事情から3月末をもってその大口修道院を閉鎖した。

# 差別主義と平等主義 (13)

紫原教会主任司祭

山口好信

トルストイの民話集に『洗礼の子』というのがあります。名付け親(代父)と子供。その子の話です。洗礼の子は大きくなって自分の代父に会うため旅に出、森の奥にある宮殿のような代父の家に着きます。代父は一つの部屋の前に子を連れて行って「この部屋だけはあけてはいけません。それだけ言い残して代父は行ってしまいます。子はひとり残され、そこで長い間生活をしますが、ある日、約束を破って入ってしまった。部屋はまん中に金の玉座があり、そばに王笏が立っている。子は玉座に坐り、笏を手にとると、突然部屋の四隅の壁が崩れ落ちて、全世界が見えてきます。子は父さんの畑はどうなっているだろうと、そちらを見ますと、泥棒が穀物を盗もうとしている。子は、父さん、泥棒が盗んでいるよと叫ぶと、父さんは目覚めて泥棒を退治します。次に子は代母のほうを見ると、彼女が寝ているときに、夫は情婦のところへ出かけていく。子は代母に向かって教えてやると、代母は飛び起きて、夫を探して懲らしめ、家から追い出す。次に子は自分の母のほうを見た。母が寝ていると、泥棒が入って来て、物音で母は目を覚まし叫んだ。泥棒は手斧を振りかざし、母を殺そうとする。子はたまりかねて、持っていた笏を泥棒に投げつけた。それは泥棒のこめかみに当たって、殺してしまった。

その時、また四方の壁ができて、再び前のような部屋になった。そこに代父が入って来て、洗礼の子に「お前はわしの言いつけを守らなかつた。また、玉座に上がつて笏を手にした。さらに、この世に悪いことをつけ加えてしまった。もしお前がもう一時間この上にすわっていたら、世の中の人間の半分を滅ぼしてしまつただろう。」こう言つて、代父は玉座に行き、笏を手にとると、また四方の壁が倒れて世界のすべてが見えるようになった。そして子が自分の父親たちにしたことの続きがどうなつたかを見せられます。三人とも以前より悪い状態になっているのでした。

要するに、われわれは自分中心の狭い視点でしか物事を判断することができない、また長い目で見ることもできないということである。神の視点に立つことはできない。人間がもし神の玉座にすわり、力を振るうと、世の中の半分の人を殺してしまうことになるのだと教えられる。人が人を裁くことの危険性を教えてくれる話です。

さて2019年9月、上智大学川村信三教授は鹿児島での講演で、第二バチカン公会議は三つの克服すべき課題を持つていたと言いました。①中世以来の、ヨーロッパ文化と教会の結合(ヨーロッパ中心主義)の克服。②教会組織の過剰な中央集権主義(ローマ中心主義)の克服。③教会内の聖職者中心主義の克服です。

鹿児島きぼうの電話(山口寛子代表)では、悩みある人からの電話に対応する相談員を養成するための講座を6月から実施する。

昨年は、コロナ禍のために中止された同講座だが、苦しみ悩む人の声を聞く相談員になるという意思のない人でも受講可能なため「人間関係を円滑にするために役立てたい」という目的で受講する人も多い。

受講は、20歳以上の人なら誰でも可能で、受講料は1万円(学生は5千円)となっている。

また、7月26日(月)と8月2日(月)の森口進先生による「アルコール依存症 その関わり」は、公開講座となる。

地)からすべての異端者は教会と世俗権力によって一掃されるべしと決議されます。

決議の第3条は「カタリ派」に関するものです。カタリ派は善なる神と悪なる神の二神を信じ、この世を造つたのは悪神であり、人間の肉体を嫌悪し、霊的に生きようとする。キリストも神人ではなく肉体を持たず仮幻だとし、さらに正統教会も秘跡も信じません。当時の教会は富と権力に満ちて墮落していると、カタリ派は清貧と謙遜を生きると。南フランスでは貧乏な生活をする修道院や司教の正統教会よりも、質素な生活を信じているカタリ派の人たちを信じる領主や貴族たちも多かつた。そのため1209年から29年までアルビジヨア十字軍が組織され、カタリ派を一掃しようとした。

アルビジヨア十字軍については高校の世界史でも教えます。十字軍がローヌ河西方

のベジエの町に入ったとき、市内には異端者も正統信者もいて見分けがつかなくなつた。それに対して指揮官の教皇特使は「すべて殺せ。神はおのれの者を知りたもう」と答えたので、市内の住民の無差別殺戮となつた。ちなみに、この2000年間でカタリ派の教会よりも多くの人を殺害した宗教が他にあつたらうかと私は思います。

異端審問官が考える「教会のあるべき秩序」(凶師宣忠)に導くのは異端として起訴され、刑罰を科されていくだけでなく、異端を撲滅することに協力しない者も幫助の罪で罰される。しかしながら異端者とされる人々は正統カトリック信仰者とも諍いなく共存している人々が多かつたのであり、「在地住民にとって異端審問の活動とは、地域的・親族的な基盤に基づいて構築された伝統的な枠組みを侵害するものでしかなく、

到底許容できるものではなかつた。それゆえ、1230年代から40年代にかけて、創設まもない異端審問に対する激しい抵抗が試みられることになる(凶師)。つまり異端を信仰している人々だけでなく地方住民が一体となって異端審問や十字軍に抵抗した場合があつたのです。先述したアルビジヨア十字軍の発端となつたのも、教皇特使が何者かに殺害されるという事件でした。

佐藤賢一の歴史小説にカタリ派を扱つた『オクシタニア』という作品があります。オクシタニアとは、大都市トールーズのある南仏ラングドック地方、カタリ派の多かつた地域の古名です。その中で、1229年、十字軍側のフランス王や高位聖職者によってトールーズ伯レモン7世はパリのノートルダム大聖堂の前庭で異端対策を怠つた罪で処断され、「悔悛の儀式」をさせられます。衆人環視の中での辱めです。この部分(第3章9)だけでも読んでいただきたい。これがキリスト教かと悲しくなる場面です。川村教授同様わたしも、過去の教会の見直しと克服なしには、現代の教会はあり得ないと思つています。私の神学校時代の体験からも、教会には中世の強権的体質がまだ残っていることは否定できないのです。

\*参考図書: 『トルストイ民話集 イワンのばか他』(岩波文庫)、服部良久編著『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史』(ミネルヴァ書房) 所収の第16章、凶師宣忠著「彷徨える異端者たちの足跡を辿る―中世南フランスにおける異端審問とカタリ派迫害」、アンヌ・ブルノン『カタリ派』(創元社)、渡邊昌美『異端者の群れ』(八坂書房) など。

## 2年ぶりにカウンセリング講座

### 鹿兒島きぼうの電話

鹿児島きぼうの電話(山口寛子代表)では、悩みある人からの電話に対応する相談員を養成するための講座を6月から実施する。

昨年は、コロナ禍のために中止された同講座だが、苦しみ悩む人の声を聞く相談員になるという意思のない人でも受講可能なため「人間関係を円滑にするために役立てたい」という目的で受講する人も多い。

受講は、20歳以上の人なら誰でも可能で、受講料は1万円(学生は5千円)となっている。

また、7月26日(月)と8月2日(月)の森口進先生による「アルコール依存症 その関わり」は、公開講座となる。

## 第33回カウンセリング講座日程

回	月	日	曜	講師	内容
※	6	12	土	事務局	説明会 14時と19時(2回)
第1回	6	18	金	中野裕明司教	共に歩むためにI
第2回	6	25	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識I
第3回	7	2	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識II
第4回	7	9	金	有倉己幸先生	職場の人間関係
第5回	7	16	金	有倉己幸先生	人間関係の中のストレス
第6回	7	26	月	森口進先生	アルコール依存症-その関わりI 公開講座
第7回	8	2	月	森口進先生	アルコール依存症-その関わりII 公開講座
第8回	8	27	金	事務局	懇親会
第9回	9	3	金	今林俊一先生	家族の人間関係
第10回	9	10	金	今林俊一先生	青少年の心理I
第11回	9	17	金	今林俊一先生	青少年の心理II
第12回	10	1	金	中野裕明司教	「きぼうの電話」について
第13回	10	8	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにI
第14回	10	15	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにII
第15回	10	22	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにIII
第16回	11	5	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにIV
第17回	11	12	金	中野裕明司教	共に歩むためにII
第18回	11	19	金	事務局	電話カウンセリングの実際①
第19回	11	26	金	中野裕明司教	共に歩むためにIII 修了式・認定式
第20回	12	3	金	事務局	電話カウンセリングの実際② 懇親会
※	12	10	金	事務局(研修)	新人オリエンテーション①
※	12	13	月	事務局(研修)	新人オリエンテーション②
※	12	14	火	事務局(研修)	新人オリエンテーション③

## 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 企画展

### 神父たちのヒロシマと復活への道

### わが命つきるとも

広島に原爆が落とされた1945年8月6日、イエズス会の幟町教会には、4人の外国人神父がいました。2人は重傷を負いましたが、皆で力を合わせて教会の仲間や隣家の人を救い出します。

一方、広島市郊外、祇園町長東のイエズス会修練院へは、救いを求めて100人近くの被爆者たちが詰めかけ、8月6日の午後には野戦病院のような状態となりました。長東修練院の院長・アルベ神父は大学で医学を専攻した経歴があり、「今こそ私が身につけていた医学の知識を生かす時」と、直ちに自室を手術室に充て、他の神父や修道女たちとともに不眠不休の治療に当たりました。

被爆後の状況を克明に描いた外国人神父たちの体験記を通して、ヒロシマの復活への道をたどります

期間: 2021年3月1日~2022年2月28日 (12月30、31日は休館)

場所: 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

広島市中区中島町1-6 TEL082-543-6271 入館無料

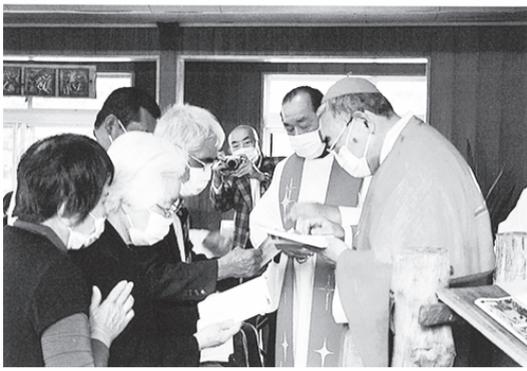
# 轟木と面縄、二つの巡回教会で洗礼式

## 宣教奉仕者選任式もあつた徳之島地区教会

徳之島では、四旬節中に二つの巡回教会（轟木教会、面縄教会）で、洗礼の恵みがありました。

ご復活を待たずに洗礼式に至ったのは島の事情（ジャガイモ、サトウキビの収穫）によるものです。3月6日（土）、轟木教会では泰良利恵子さんと息子の聖河君、空聖君が洗礼の恵みを受けました。

轟木の小さな教会での洗



面縄教会での洗礼式

みを受けられたほかに、終身助祭を目指しておられる重久知司さんの終身助祭候補者認定式、宣教奉仕者9人の選任式もありました。司祭不在時に活躍してくれている宣教奉仕者は、徳之島地区にはなくてはならない存在で、洗礼式と共に大きな喜びとなりました。

ミサ後には司教様を囲んで、和やかな昼食のひと時を持

先月は「大きな魚」の話でしたが、魚と言えば同じルカ福音書に「おびただしい魚が（網に）かか（つた）」のを見て（5・6）、「シモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、『主よ、わたしは罪深い者なのです』と言った。」とあります（5・8）。この表現と似たものがエズラ記に見られます。そこには「このような有様が御前に立ちえないのですが、罪深い者として、御前にぬかずいております。」とあります（9・15d）。ここ

「このような有様」が何を意味するかをお話しておきましょう。

バビロニア帝国がペルシアに支配されると、それによりユダヤの民はバビロン

捕囚から解放されることになりました。その後、ペルシアはユダ民族に秩序をもたせるためにエズラという人物を選びました。彼はエルサレムの宗教的慣習を復興

する権威を王から与えられ、捕囚の民を連れて祖国に帰ったのです。

祖国に帰ったエズラが目にしたものはユダヤの民が主の律法を破り、禁じられ

のです。そこでエズラは彼らに異邦人の嫁と離婚し、また彼女らが産んだ子をすべて離縁することを誓わせたのです。

こうしたことが背景にあるとすれば、ペトロが言う「罪深き」とは異邦人の妻を娶っていたことなのかもしれない（マタイ8・14参照）。それゆえに自分から離れて欲しいとイエス様に言ったとも考えられます。

旧約の時代であればペトロは断罪されていました。しかし、そのペトロにイエス様は「恐れることはない。今

でも活躍した森章子さん（玉里教会）が会計事務の年間スケジュールから小教会会計と教会会計の処理の仕方について、森さんの所属する玉里教会での処理方法と照らし合わせながら説明した。また教会会計部からも法定献金や教区費等の納入期日の厳守についても依頼があった。

その他では、年度末の未払い金等の処理方法が説明されたほか、財産目録作成にかかわる10万円以上の物品購入についての教会会計への連絡の徹底が申し合

から後、あなたは人間をとる漁師になる。」と言われたのです（8・10c）。

このことは何を意味しているのでしょうか。福音を伝える者になるためには、神様の前で清廉潔白であることが条件にはならないということです。ペトロのよう

祈りの意向  
世界の共通  
日本の教会  
病者

3月28日（日）午後、教区本部で「小教会会計担当者研修会」が開かれた。この研修会は、昨秋、教会会計部が各小教会に1月末をめどに2021年度の予算書の提出を依頼したものの、多くがボランティアとして会計に携わっている小教会の会計担当者への急な依頼はかなりの負担となつたようで、これまで詳しい会計の説明をしてこなかった反省から実施したもの。研修会出席の対象は本土地区の教区司祭地区会計の小教会に限られての実施となつた。

14時からの研修会には始良、紫原、玉里、溝辺など



6教会から8人が駆けつけ、阿久根や鹿屋など遠方の4つの小教会はオンラインでの出席だった。

この日の研修では、現在、聖マリア学園本部で働き、以前は教区本部会計部

でも活躍した森章子さん（玉里教会）が会計事務の年間スケジュールから小教会会計と教会会計の処理の仕方について、森さんの所属する玉里教会での処理方法と照らし合わせながら説明した。また教会会計部からも法定献金や教区費等の納入期日の厳守についても依頼があった。

その他では、年度末の未払い金等の処理方法が説明されたほか、財産目録作成にかかわる10万円以上の物品購入についての教会会計への連絡の徹底が申し合

から後、あなたは人間をとる漁師になる。」と言われたのです（8・10c）。

このことは何を意味しているのでしょうか。福音を伝える者になるためには、神様の前で清廉潔白であることが条件にはならないということです。ペトロのよう

祈りの意向  
世界の共通  
日本の教会  
病者

洗礼式には、「一人でも多くの方に教会の行事に触れてもらいたい」との希望からお声掛けをしたところ、90歳を過ぎた信徒、集落の区長さん、婦人会長さんなど未洗者の方々も大勢集まってくれました。

3月28日（日）の面縄教会での洗礼式には中野司教様が駆けつけてくださいました。このミサでは、福田満雄さんと福本みづ子さんのお二人が洗礼の恵みを受けられたほかに、終身助祭を目指しておられる重久知司さんの終身助祭候補者認定式、宣教奉仕者9人の選任式もありました。司祭不在時に活躍してくれている宣教奉仕者は、徳之島地区にはなくてはならない存在で、洗礼式と共に大きな喜びとなりました。

ミサ後には司教様を囲んで、和やかな昼食のひと時を持

ち、その後希望者で検福にある「宣教開始の碑」を見学して散会しました。（報告・浜田スミ子）

短歌  
吉野教会 中江均  
笑み誘う  
主の洗足にペトロ請う  
足だけでなく  
手も頭もと

【KABAYAN SEKSYON+】  
Mula sa mga Labi ng mga Pari  
Balikan natin ang mga talata mula sa aklat ni propeta Malakias na sinipi sa panimula. Ginamit ang siping ito ng Ika-Lawing Konseho Vaticano nang ipahayag nito na tama lamang na hanapin ng Bayan ng Diyos ang Salita ng buhay na Diyos sa mga labi ng mga pari (Presb. Ordinis. 4). Kakaiba ang orakulong ito. Sa biblical na perspektibo hinahanap ang Salita ng Diyos sa mga labi ng mga propeta. Ang Salitang "propeta" ay mula sa salitang Griyego na prophetes, isang taong nagsasalita para sa Diyos at sa ngalan ng Diyos. Ang mga propeta sa Bibliya ang walang dudang makapagsasabi nang: "Ito ang Salita ng Panginoon." Samantala, kilala ang mga pari sa Lumang Tipan, na mula sa lahi ni Levi, sa kanilang pag-aalay ng mga sakrispisyong at bilang tagapamagitan ng mga tao sa harap ng Diyos. Kung ipahahayag man ng mga pari ang Salita ng Diyos, ito ay sa pamamagitan ng urim at ng thumim. At ang "salita" ay may kinalaman sa mga dapat piling gawin sa panahon ng digmaan. Sa kabilang banda naman, ipinahahayag ng mga propetikong salita ang mensahe ng Diyos na binubuo ng kanyang kalooban at hatol.

Personal na kaloob ang propetikong pagtawag at hindi ito maaaring ilipat sa iba dahil gusto lamang ng tao. Samantala, ang ministeryo ng pagpapari ay isang bagay na may kinalaman sa institusyon. Maaaring ang torah (kautusan) na binabanggit ni Malakias ay ang Torak ni Moses at ang mga propetikong orakulo na tinipon, iningatan at ipinaliwanag ng mga pari. Dahil itinuturing na ito ng pamayanang Israelita bilang "inspirado" at "Salita ng Panginoon," hinahanap na ang mga kautusan sa mga labi ng mga pari na naging tagapangalaga at tagapagpahayag ng Salita.

Ang Diyos, na nagsasalita sa ating mga ninuno sa iba't ibang panahon at sa iba't ibang paraan sa pamamagitan ng mga propeta, "nitong huling mga araw, siya'y nagsalita sa atin sa pamamagitan ng kanyang Anak" (Heb 1.1-2)-si Jesukristo. Ginawang ganap ni Jesus ang Pagbubunyang. Wala nang pampublikong pagbubunyang ang inaasahan bago dumating ang Panginoong Jesus (Dei Verbum 4).

Wala na tayong hinihintay pang mga propetikong orakulo. At lalo pa ngang nagiging totoong ang sipi ni Malakias sa ating panahon. Tama lamang na hanapin ng tao ang Salita ng Diyos sa mga labi ng mga pari ng Bagong Tipan. Bilang mga katulong ng mga Obispo, tungkulin nilang ipahayag ang Ebanghelyo ng Diyos sa lahat ng tao.

Ang Salita ng Diyos sa Buhay at Misyong ng Pari (Fr. Dino Orolfo)

### 会と催し 5月

- 2日（日）復活節第5主日
- 3日（月）聖フィリポ 聖ヤコブ使徒 復活節第6主日
- 9日（日）世界広報の日
- 11日（火）みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 12日（水）中野アカデミー・教区本部・19時
- 14日（金）聖マチャ使徒
- 15日（土）正義と平和協議会・教区本部・13時
- 16日（日）主の昇天
- レジオマリエ鹿兒島コミチウム・谷山教会・14時
- 大熊教会堅信式
- シノドス典礼部会・教区本部・14時
- 17日（月）司祭評議会・教区本部・14時
- 鹿兒島カリタス・教区本部・16時30分
- 20日（水）中野アカデミー・教区本部・19時
- 22日（木）デイリーノ神父霊名（聖ベルナルディーノ）
- 23日（金）青年会・鴨池教会・18時30分
- 26日（水）聖霊降臨の主日
- 26日（水）谷山教会堅信式・9時
- 26日（水）オリーブの会及び共にこの道・教区本部・14時
- 30日（日）中野アカデミー・教区本部・19時
- 31日（月）三位一体の主日
- タム神父叙階記念（2007年）

- 【司教日程】2〜3日乙女峠祭、12日中野アカデミー、16日大熊教会堅信式、17日司祭評議会、19日中野アカデミー、23日谷山教会堅信式、25日福岡大神学院会議、26日中野アカデミー
- 祈りの意向
- 世界の共通
- 日本の教会
- 病者

# 教区シノドス これからどう進む⑧ み言葉の分かち合いとは (1)カトリック教会の教えから

教区シノドス推進会事務局

長野 宏 樹

これまで「全員参加の共同体をめざして」ということで「目指す小教区像」についていろいろタイプの小教区像を提示し、理想とするタイプは『小共団体(班)中心の教会』であることを考えてきました。そして、班活動の基礎になるのは「み言葉の分かち合い」であり、それにより信仰の交わりを深め、信仰の養成ができる仕組みになっているので、一人ひとりが信仰の喜びを体験していき、その喜びに満ち活き活きとした信仰者の姿が周囲の人々にも良い影響を与え神の愛のすばらしさを伝える結果にもつながると述べてきました。

しかし私たちは、ミサ中の説教や地区集会などで神父さまから聖書にまつわることをお聞きしたり、聖書講座(研究会)で学んだりすることなどに慣れ親しんできたせいか、「み言葉の分かち合い」そのものには馴染みにくいという違和感もある、という人が多いようです。

また、「聖書の分かち合い七段階法(セブンスステップ)」をやってみただけでもどうもびったりこない、難しい、響かない、などという声も聞こえてきたりします。そのような問題を解決するためには、「み言葉の分かち合い」のねらいや特長、そして実施する際の留意点などを理解することがどうしても必要になります。

そこで今回から始まるシリーズでは、「み言葉の分かち合い」の身をより詳しく考えていきたいと思います。これから述べていくことは後述するどの分かち合いにも共通する事項ですので、基本的に

馴染みやすいと言われる「七段階法(セブンスステップ)」を基本にしながら説明していきたいと思えます。

## (1)カトリック教会の教えから

第二バチカン公会議以降、聖書の大切さや聖書の言葉の一つひとつが豊かな神の恵みの源泉であることなどが再認識されてきましたが、これまでに試みられた種々の経験などから「み言葉の分かち合い」の素晴らしさもいろいろと報告されるようになりました。では、日本の教会は具体的にどのような教えを持っているのでしょうか。2003年日本の司教団から公式に発行された『カトリック教会の教え』という新しい要理書があります。その第4部・第3章・7節(457頁)の「ともにささげる祈り」の項には「祈りの分かち合い」について述べられた箇所がありますので、その部分を紹介させていただきます。



## ①新しい動き

20世紀になって、キリスト教の国々にさまざまな新しいムーブメントが起こりました。これらのムーブメントの中には、プロテスタントやカトリックといった特定のキリスト教の派を超えて人々が参加するものもあれば、カトリックの中だけに限られたものもあります。

## ②祈りの分かち合い

さらに「祈りの分かち合い」と言われる形態もよく行われるようになりまし。仲間たちが集まって、輪を作って座に着きながら聖書を朗読し、しばらく朗読された箇所

ありませぬ。この心の重圧を他者に聞いてもらうことは、人を支え、苦しみを軽減し、開放感を味わわせてくれるのです。また、悩みや苦しみをただでそそられていることなど、さまざまな生活体験を話し、自分の生活の一部を他者と共有したいと感じることもありません。教区の仲間が集まり、これらさまざまな事柄について互いに分かち合うことができるならば幸いです。

## ③話し合いの輪から生まれる祈り

人は様々な苦しみや悩みを持って生きています。これら自分の中だけに閉じ込めた結果、ますます辛い思いをつのらせている場合も少なくありません。

# KJPP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 5月号

すべての人の人権を大切に

5月3日は憲法記念日です。日本国憲法が施行されてから74年経ちました。日本国憲法は立憲主義(憲法に基づいた政治を行い、権力の制限を通じて個人の権利と自由を守る)の思想に基づいて「国民主権・基本的人権の尊重・平和主義」を基本原則としています。平和主義は9条に、基本的人権の核となる個人の尊厳は13条に、明文化されています。ところが現実の政治においては、憲法の基本原理に逆行する動きがあります。鹿児島県内においては馬毛島に自衛隊基地を作り、米軍が空母艦載機の飛行訓練を行うことを可能とする動きが

必要であることは言うまでもありません。

## (2)み言葉の分かち合いの種類

このように、「カトリック教会の教え」ではみ言葉の分かち合いの素晴らしさについて紹介されていますが、では具体的にどのようなすればよいのかという問題がすぐに生じてくるはずですが、み言葉の分かち合いと言えは「七段階(セブンスステップ)法」を思い起こす人が多いと思いますが、それだけしかないのでしょうか。「七段階法」は馴染みややすく、入りやすい方法ではありますが、長い期間それだけを続けていると、個人的な霊性が深められる度合いに比べて社会問題への関心の深まりの度合いは高まらない、と感じるようになります。その問題を解決するために、「み言葉の分かち合い」にはさまざまな種類が考案されています。その中の代表的なものとして、テーマや目的などを異にした、次の4つをご紹介します。

必要であることは言うまでもありません。この心の重圧を他者に聞いてもらうことは、人を支え、苦しみを軽減し、開放感を味わわせてくれるのです。また、悩みや苦しみをただでそそられていることなど、さまざまな生活体験を話し、自分の生活の一部を他者と共有したいと感じることもありません。教区の仲間が集まり、これらさまざまな事柄について互いに分かち合うことができるならば幸いです。そして分かち合ったことを通じて、自然に仲間のために皆で神に感謝と賛美をささげたり、また願い事の祈りを唱えるなど、その場からわき上がる祈りが生まれるといった共同体験をお勧めします。このような祈りの場を持つことは、どれほど温かい雰囲気をもたらしことでしょうか。しかし、このような話し合いと祈りの集いをする場合、そこで聞いたことを絶対に外部に伝えないことが大切です。その意味で、互いの成熟が

たします。

## ①「七段階法」

## ②「共同応答法」

## ③「アモス法」

## ④「ともにこの道を」

これらの相違を一口ずつで述べるとすれば、「七段階法」が神との個人的な関わりを重視するのに対して、「共同応答法」は他者との関わりを重視し、「アモス法」は社会との関わりを重視する、「ともにこの道を」は現実に直面してこの道を行くところから入り聖書はどのように教えているかと学んでいくと言ったことができるでしょう。また、この4つを、アプローチの方法に基づいて次の2種類に分類することもできます。

## 1.聖書から生活へ①②

## 2.生活から聖書へ③④

それぞれが、長所と短所を持っていて、聖書から出発すれば、人間は、神にかたどって創造されたがゆえに、人格としての尊厳を備えています。同時に、自分に代わってだれも行うことのできない信仰と愛をもって神に回答するように招かれています」と述べています。(二〇〇七年「世界平和の日」メッセージ)信仰の核心が愛(他者を大切にすること)である以上、他者、特に社会的弱者に関わり、人権を尊重することは当然のことだと思えます。信徒一人ひとりが、人権問題に関心を持ち人権が守られる社会を形成することに努めるべきです。人権の侵害は、国内に留まりません。最近のミャンマーや香港の情勢を見ると、表現の自由を侵害する弾圧が常態化しており、痛ましい出来事です。私たちは何をすべきか問

は生活問題がおろそかになりやすく、逆に生活問題から出発すれば聖書のメッセージが疎かになる危険性があります。その両極端を避けるためには、異なる方法を効果的に交えながら活用することが大切になります。鹿児島教区では1998年10月に「地区(班)集会の祈り(みことばで祈る)」社会と教会の福音化」が発行されていますので記憶にある方もおられると思いますが、それから20年余り経過していますので、ほとんどの皆さんにとっては、「み言葉の分かち合い」を初めて体験していくことになるだろうと思えますので、まず最初は「七段階法」だけを活用して、神との個人的交わりのすばらしさを体験させて頂くのがよいのではないのでしょうか。

次回回は「聖書研究会」と「み言葉の分かち合い」との違いについて考えていきたいと思います。

わたっています。そして残念な事ですが教会の内においても個人の尊厳や良心の自由を侵害する性的虐待などの問題が起きています。神の国とその義を求めると同時に、人権を守るための不断の努力が必要です。

参考文献「キリスト教と人権思想」(2008年 サンパウロ)、「すべての人の人権を大切に」(2008年日本カトリック司教団メッセージ)(紫原教会信徒 山下和実)

▼社会問題の分かち合い  
(毎月第三土曜日)  
日時・5月15日(土)  
13時~16時

場所…教区本部  
内容…原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他